



KANSAI
UNIVERSITY

教職支援センター年報

2024

関西大学 教育推進部
教職支援センター

『教職支援センター年報 2024』 目次

投稿原稿

<研究論文>

高等学校社会科（公民的分野）・公民科の検定教科書における日本からの海外移民関係記述(Ⅰ)

—東京書籍版『政治・経済』（蠟山政道他、1966年）が示す国家・国民および民族観の問題点—

関西大学非常勤講師 岡本 洋之 1

<実践報告>

児童のキャリア発達を促す金融経済教育の取組

—堺市立平岡小学校の実践を事例として—

関西大学文学部 教授 岩崎 保之
堺市立平岡小学校 校長 丹後 靖史
堺市立平岡小学校 教諭 榎葉 弘治 10

国語教室の本質

——「私達が立っている場所」を参考に

関西大学非常勤講師 梶井 英人 21

1. 教員の養成の目標

関西大学教職支援センターの基本理念 33

2. 教員の養成に係る組織

教員の養成に係る組織 34

教職支援センター規程 36

教職支援センター自己点検・評価委員会規程 40

3. 教員の養成に係る授業科目

教職に関する専門教育科目担任者一覧 42

4. 教員免許状の取得の状況

各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科 47

学部別介護等体験 参加者数 49

学部別中学校・高等学校教育実習生数 50

教員免許状取得状況（学部・大学院） 51

教員免許取得までの諸手続き 57

5. 教員への就職の状況	
【校種別】公立・私立教員採用試験合格者数	58
【学部・研究科別】公立教員採用試験合格者数	59
教員採用選考に係る「大学推薦」の応募・合否結果	60
6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組	
「介護等体験 第3回事前指導」	61
「①教育実習事前指導登録ガイダンス」	62
「③教育実習事前指導履修者対象ガイダンス」	64
「⑤教職実践演習（中等）履修者対象教職課程・教員養成フォーラム」	66
教員採用試験合格者との情報交換会	68
教職課題研究会	70
教員採用内定者との懇談会	71
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～	72
教員採用試験 面接対策セミナー実施状況	73
教職ガイダンス日程	74
7. その他	
関西大学教職支援センター年報投稿規程・執筆要領	75

<実践報告>

児童のキャリア発達を促す金融経済教育の取組 —堺市立平岡小学校の実践を事例として—

関西大学文学部 教授 岩崎 保之
堺市立平岡小学校 校長 丹後 靖史
堺市立平岡小学校 教諭 檜葉 弘治

1. 報告の目的

現代社会において、子どもたちが将来にわたり自立した生活を送るためには、早い段階から子ども一人ひとりのキャリア発達を支援する教育が求められる。キャリア発達 (career development) とは、「過去・現在・未来の時間軸の中で、社会との相互関係を保ちつつ、自分らしい生き方を展望し、実現していく力の形成の過程」(菊池、2008、p.15)である。中央教育審議会(2011)では、このような「キャリア発達」を促す教育、すなわち「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」を「キャリア教育」と定義し(p.17)、日本の学校教育における取り組みの充実を求めた。

この答申を契機として、キャリア教育は中等教育段階の学校だけでなく、初等教育段階の学校においても意識され、実践されるようになった。今日では、小学校学習指導要領(平成29年告示)の総則において、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と規定されており、これを根拠とした実践が各地の学校で行われている。

そのような学校の一つに、堺市立平岡小学校がある。同校は、2023年度および2024年度の2年間にわたり、大阪府金融広報委員会より「金融経済教育研究校」の指定を受け、研究的実践に取り組んだ。そして、大阪府で初めてとなる金融経済教育公開授業を、2024年11月8日に大阪府金融広報委員会・金融経済教育推進機構との共同主催で開催し、研究成果を公表した。

同校が取り組んだ「金融経済教育」とは、「お金や金融のさまざまな働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会の在り方について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に判断し行動できる態度を養う教育」(金融広報中央委員会:2023、p.1)¹⁾である。変化の激しい社会においては、児童が自らの生き方を主体的に選択し、社会の一員として経済的に自立する力を身に付けることが重要である。このようなキャリア発達の基盤を形成するうえで、小学校における金融経済教育は、今後ますます重要な役割を果たすと考えられる。児童が金融経済に関する知識やスキルを身に付けることは、単にお金の管理能力を養うだけでなく、将来の職業選択やライフプランの形成にも大きな影響を与えるだろう。この点において、金融経済教育は児童のキャリア発達を促すためのキャリア教育と密接に関連する教育であるといえる。

そこで本報告では、平岡小学校における金融経済教育の実践を事例として取り上げ、児童のキャリア発達に及ぼす影響について述べる。同校の実践では、児童が主体的に学ぶことを重視し、地

域社会や保護者と連携しながら、オーセンティック（真正）な経済活動を体験する機会を提供した。本報告では、この実践を通じて得られた知見をもとに、金融経済教育の教育的意義を考察し、今後の小学校教育におけるキャリア発達支援の在り方について提言を行う。

2. 実践の概要

（1）学校教育目標と研究主題との関連

本校の学校教育目標は、「多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成～自律と対話～」である。この教育目標に基づき、研究主題を「知りたい！考えたい！行動したい！みんなとつながる平岡っ子！～児童が主体的に活動できる参加度の高い授業を通して～」と設定した。

本研究では、児童が学習内容を「自分ごと」として捉え、主体的に考え、行動する力を養うことを重視した。そのため、学級経営や授業設計において、児童が他者との対話を通じて多様な価値観に触れ、自らの考えを深める機会を意図的に設けた。また、個々の学びを学級や学校全体の活動と結びつけることで、児童が自己の成長を実感しながら学びを広げる仕組みを構築した。特に「対話」に重点を置き、児童同士が意見を聞き合い、新たな視点を発見することで考えを発展させる力を育成した。この「考えを深める力」は、学力向上にとどまらず、非認知能力の育成を通じて児童の人間力を高めることにもつながると考えた。

さらに、本研究では、探究学習を基盤とした「参加度の高い授業」と「金融経済教育」を組み合わせた教育実践を展開した。「参加度の高い授業」とは、児童が単に活動に参加するのではなく、学習課題を「自分ごと」として捉え、深い学びへとつなげることを重視するものである。この授業を通じて、児童が主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、学習内容を現実社会の課題と結びつける契機を提供した。一方、「金融経済教育」では、児童が生活や社会の仕組みを理解しながら、目標に向かって努力する力や困難を乗り越える忍耐力を育むことを目的とした。

これらの要素を統合することで、研究主題の達成を図った（図1）。特に、児童が学びを通じて自己の可能性を発見し、未来の社会で主体的に行動する力を養うことに注力した。

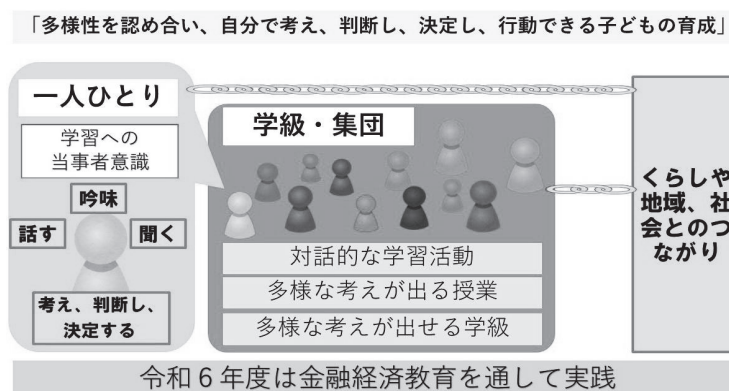


図1 研究構想図（2024 年度）

（2）学習活動の重点と金融経済教育の位置づけ

昨年度の児童アンケートでは、学習に対する当事者意識が薄い児童や、生活・地域・社会とのつながりを実感する意識が低い児童が一定数存在することが課題として明らかになった。そこで、本年度の実践では、児童が自らの学びを社会の中に位置づけられるよう、「一人ひとり」に焦点を当てた学び、「学級・集団」における学び、「生活や地域、社会とのつながり」を意識した学びの三

つの「学び」を位置づけた学習活動を重点的に実施した。

学習活動においては、金融経済教育を中心に据えた一貫性のある指導を心掛けた。金融経済教育には、「生活設計・家計管理に関する分野」「金融や経済の仕組みに関する分野」「消費生活・金融トラブル防止に関する分野」「キャリア教育に関する分野」の4分野がある（金融広報中央委員会：2023、p.2）。本研究では、特に「キャリア教育に関する分野」に重点を置き、「働くこと」という抽象的なテーマや「お金」という具体的なテーマを扱うことを通じて、児童がこれまでの経験を土台にしながら新たな視点を獲得し、将来の社会とのつながりを意識しながら学びを実生活に結びつけられるよう配慮した。

3. 実践の詳細

6年生の総合的な学習の時間に実施した単元「働くって？」について、本研究で設けた三つの視点に基づいて述べる。

（1）研究の視点①「児童が当事者意識をもって学習に取り組んでいたか」

児童が将来の仕事について考える学習活動を実施した。単に仕事の内容を調べるだけでは、学習が「自分ごと」とならず、表面的な理解にとどまる可能性がある。そこで、児童の主体的な学びを促すために、次の二つの手立てを講じた。

手立て①：将来のキャリアを具体的にイメージする時間を設けた

現在の自分から未来のキャリアを順にイメージすることで、将来の仕事が今の自分とつながっていることを意識させた。これにより、学習が児童自身の人生の一部として捉えられ、主体的に取り組む姿勢が育まれると考えた。

手立て②：働く人々に焦点を当てた学習活動を実施した

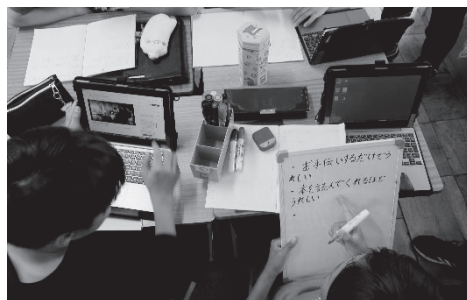
実際に働く人々の話を聞くことで、児童自身の仕事観と比較しながら、働くことへの理解を深めることをねらいとした。例えば、学芸員や介護福祉士といった専門職の方々の話を聞くことで、「社会のために働く」という視点が生まれ、それまでの「収入や成長のために働く」という考え方に変化が見られた。

（2）研究の視点②「対話的な学習活動を通じ、多様な考えを吟味し、更新・修正する機会があったか」

1学期に、学校で働く人々（教員、調理員、ボランティアサポーターなど）にインタビューを行い、それを基に「働く意味」について分析した。「楽しさ」「力を生かせる」「世の中のため」「収入の安定」などの観点を設定し、インタビュー結果を数値化してレーダーチャートに表現した（写真 1・図 2）。その後、児童同士でレーダーチャートを見比べ、働く意味について意見を交わした。

この活動を通じて、児童は働くことに関する多様な価値観に気づき、考えを深める機会を得た。ただし、学校という限られた環境でのインタビューであったため、職種の偏りがあり、大きな違いを捉えにくいという課題があった。そこで2学期には、学芸員や介護福祉士など、より多様な職業の人々と出会い、意見を共有することで、働く意味に対する理解をさらに深めた。

また、「仕事の楽しさ」と「収入」のバランスについて考える場を設け、金融経済教育の観点から仕事観を整理した。児童からは事故で収入が減ったときのリスク」や「働くことと生活のバランス」といった視点が生まれ、学びが現実社会とつながる経験となった。



(3) 研究の視点③「児童が生活や地域、社会とのつながりを意識し、それを学びに生かしていたか」

身近な仕事から社会全体の仕事へと視野を広げる学習を実施した。まず、学校で働く人々について学び、次に地域の専門職の方々と交流し、最終的に児童自身の関心のある職業について考えた。この段階的なアプローチにより、児童が学習内容と社会のつながりを実感しやすくなるよう配慮した。

取組の成果として、多くの児童が「働く意味」や「自分の将来の夢」について深く考えられるようになった（後述）。特に、将来の夢が明確でなかった児童も、自分の価値観に基づいた目標を具体的に表現できるようになった。その一方で、ゲストティーチャーとの出会いが単発で終わったことが課題として残った。地域で働く人々と継続的に関わる機会を設けることで、仕事に対する多様な視点をさらに広げられる可能性がある。今後の実践では、一人の職業人と継続的に関わりながら、働く意味の多様性を深く探求する機会を増やしたい。

〇〇先生

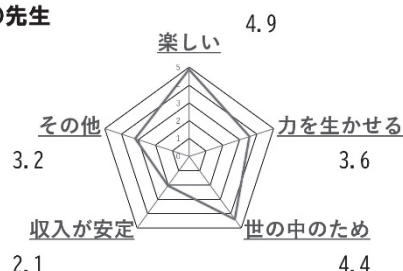


写真1・図2 対話的な学習活動

4. 実践の成果

(1) 児童の変容

① アンケート調査の設計と実施

これまでに述べた平岡小学校の実践の効果を検証するため、全校児童 415 人を対象に、Google フォームを用いた自己記入式のウェブ調査を実施した。調査期間は、2024 年 10 月 18 日（金）から 10 月 30 日（水）までであった。児童は、自身のタブレット PC を使用し、Google フォームにアクセスして回答した。

アンケートは、在籍学年を問う質問に続き、以下の六つの大問で構成された。

- ・ 大問 1:家でしている自分の仕事や手伝い（低学年 10 項目・中学年 12 項目・高学年 12 項目）
- ・ 大問 2:仕事・夢・お金のことについて家の人と話している頻度（全学年 4 項目）
- ・ 大問 3:お金の価値に関する意識（低学年 6 項目、中学年 10 項目、高学年 11 項目）
- ・ 大問 4:金融経済の基礎に関する知識（低学年 0 項目、中学年 6 項目、高学年 11 項目）
- ・ 大問 5:お金に関する行動や考え方（低学年 4 項目、中学年 2 項目、高学年 6 項目）
- ・ 大問 6:勤労生産や自らの将来に関する意識（低学年 7 項目、中学年 10 項目、高学年 13 項目）

大問 1～5 は、金融広報中央委員会が日本リサーチセンターに委託して実施した「子どものくら

しとお金に関する調査(第3回)2015年度」(金融広報中央委員会, 2016)の一部を採用した。大問6は、平岡小学校(2024)が作成した「『キャリア教育に関する分野』における各学年別の目標」²⁾に基づき、アンケート調査の実施責任者である岩崎が作成した。

回答形式は、大問1は多肢選択、大問2は「よく話をする」「ときどき話をする」「話をしない」から選択、大問4は「正しい」「まちがっている」「わからない」から選択、それ以外の大問は「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」と「わからない」から選択とした。

アンケート調査の実施に先立ち、調査対象校の校長および研究主任に Google フォームの案を提示し、意見を求めた上で実施の承認を得た。トップページには調査の目的を記載し、回答は可能な範囲で構わないことを平易な表現で明示した。

② アンケート調査の結果と考察

児童による回答の送信をもって、調査への同意が得られたものとみなした。調査対象は全校児童415人(低学年154人・中学年172人・高学年89人)であり、送信された回答373件(低学年147件・中学年145件・高学年81件)を分析対象とした。回答率は89.9%(低学年95.5%・中学年84.3%・高学年91.0%)であった。

データ分析にあたっては、IBM社製の統計ソフトウェア SPSS Statistics (version 24, release 29.0.2.0)を使用し、統計的検定を実施した。リッカート尺度(順序尺度)は量的変数(間隔尺度)として扱い、有意水準は5%に設定した。

単純集計の結果、大問1～5について、金融広報中央委員会による全国規模の調査(低学年4,172件・中学年5,200件・高学年6,967件)と比較し、以下の項目で10%以上の違いが見られた。

【家でしている仕事や手伝い】買い物(低学年+13.3%)／弟や妹のめんどうをみる(+14.4%)

【仕事・夢・お金のことについて家の人と話している頻度】家の人の仕事のこと(よく話をする:低学年+22.5%、中学年+23.0%、ときどき話をする:高学年+10.8%)／自分がつきたい仕事(よく話をする:低学年+23.3%、中学年+25.7%)／しょうらいの夢(よく話をする:中学年+11.9%、高学年+10.1%、ときどき話をする:高学年+10.1%)／お金のこと(よく話をする:低学年+16.1%、中学年+28.9%)

【お金の価値に関する意識】お金をたくさん貯めたい(そう思う・だいたいそう思う:高学年+11.8%)／お金持ちはかっこいい(あまりそう思わない・そう思わない:低学年+13.0%)／家にあるお金は、いくらつかってもなくなる(そう思う・だいたいそう思う:中学年+10.4%、あまりそう思わない・そう思わない:低学年+14.9%)／1,000円は大金である(そう思う・だいたいそう思う:中学年+13.3%、わからない:中学年+16.1%)／5,000円は大金である(そう思う・だいたいそう思う:高学年+14.8%、わからない:高学年+11.1%)／お金が一番大切である(そう思う・だいたいそう思う:低学年+10.7%、高学年+21.3%、あまりそう思わない・そう思わない:低学年+15.4%、わからない:高学年+11.1%)／お金持ちはかっこいい(そう思う・だいたいそう思う:高学年+10.1%、わからない:高学年+11.7%)／お金よりも大事なものがある(そう思う・だいたいそう思う:高学年+10.5%)／お金をためておくと、高いものを買うことができる(そう思う・だいたいそう思う:中学年+16.8%、高学年+12.4%、あまりそう思わない・そう思わない:中学年+10.3%)／自分でつくったものを売ること、お金を得ることができる(そう思う・だいたいそう思う:高学年+33.3%、あまりそう思わない・そう思わない:高学年+18.7%、わからない:高学年+14.8%)

【金融経済の基礎に関する知識】みんながほしいがるものは、値段が高くなる(正しい:高学年+12.8%)／図書カードは、本屋ではお金と同じように使うことができる(正しい:高学年-14.4%)

【お金に関する行動や考え方】ほしいものを、がまんすることも必要だ(そう思う・だいたいそう思う:-16.1%)／「ほしい」と思ったものは、すぐを買ってしまう(そう思う・だいたいそう思う:高学年+16.2%、あまりそう思わない・そう思わない:高学年-12.2%)

調査結果から、対象児童は家族との会話や手伝いを通じて「お金」に関する実感を持ちやすい環境で生活していることが推察された。一方で、「お金」に対する価値観にはばらつきがあり、貯蓄意識は全国平均より高いものの、計画的な消費に対する意識は全国より低い傾向が見られた。

今後の金融経済教育では、単にお金を貯めたり使ったりするだけでなく、計画的な消費行動やキャッシュレス社会への適応などをバランスよく扱うことが求められる。

また、【仕事・夢・お金のことについて家の人と話している頻度】や【お金に関する行動や考え方】と、《勤労生産や自らの将来に関する意識》の相関分析を行ったところ、以下のような関連が確認された。

低学年 【ほしいものを、がまんすることもひつようだ】×《はたらく人は、すばらしいとおもう》($r=.30, p<.01$)
／【ほしいものを、がまんすることもひつようだ】×《いえのてつだいをすると、いえのひとのやくにたってうれしい》($r=.38, p<.01$)

中学年 【自分がつきたい仕事(を家の人と話をしたことがある:筆者注)】×《学校でいろいろな活動をするとき、仕事について考えることがある》($r=.39, p<.01$)／【ほしいものを、がまんすることもひつようだ】×《学校でいろいろな活動をするとき、仕事について考えることがある》($r=.46, p<.01$)

高学年 【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《働くことの大切さとお金を得ることの苦勞を知っている》($r=.48, p<.01$)／【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《人は働くことができることや、働かなければならないことを知っている》($r=.48, p<.01$)／【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《働いている人びとは社会に役立っていることを知っている》($r=.48, p<.01$)／【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《自分の夢をもち、夢の実現に向けて努力しようとしている》($r=.43, p<.01$)／【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《生活を支えている社会に感謝している》($r=.43, p<.01$)／【お金を使うときは、使い方をよく考えている】×《法や決まりを守って行動しようとしている》($r=.52, p<.01$)／【高いものがほしいときには、お金を貯めている】×《自分の夢をもち、夢の実現に向けて努力しようとしている》($r=.46, p<.01$)／【高いものがほしいときには、お金を貯めている】×《生活を支えている社会に感謝している》($r=.46, p<.01$)／【友達から借りたものは、必ず返している】×《自分の夢をもち、夢の実現に向けて努力しようとしている》($r=.61, p<.01$)／【友達から借りたものは、必ず返している】×《生活を支えている社会に感謝している》($r=.47, p<.01$)／【自分がつきたい仕事(を家の人と話をしたことがある:筆者注)】×《自分の夢をもち、夢の実現に向けて努力しようとしている》($r=.50, p<.01$)／【しょうらいの夢(を家の人と話をしたことがある:筆者注)】×《自分の長所・短所が分かり、将来つきたい仕事について考えている》($r=.40, p<.01$)／【しょうらいの夢(を家の人と話をしたことがある:筆者注)】×《自分の夢をもち、夢の実現に向けて努力しようとしている》($r=.56, p<.01$)

以上の諸結果から、低学年では金銭管理の意識と労働に対する肯定的な態度が関連し、中学年では家庭での職業に関する対話が職業意識の発達に影響を与えていた。高学年では、金銭管理の意識や社会規範の遵守が、労働や将来への意識と強く結びつくことが明らかとなった。

今後は、学校内の学習活動と家庭での対話を結びつけ、児童がより主体的に将来のキャリアや社会との関わりを考えられるよう支援することが求められる。

(2) 教員の変容

金融経済教育公開授業（研究発表会）を実施した理由は、学校経営上の観点から二つある。一つは、本校の学校教育目標の推進であり、もう一つは、本校教員の単元構想力や指導力の育成、およびキャリア形成である。

以下、校長としての立場から、本研究の意義と実践の成果、そして教員の変容について述べる。

① 学校教育目標と金融経済教育の関係

本校の学校教育目標は、「多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成～自律と対話～」(前述)である。この目標は、教育活動全体を通じて追求すべき最上位の目標であり、私たち教員は、児童が主体的に学び合う授業を計画・実践することを常に意識してきた。

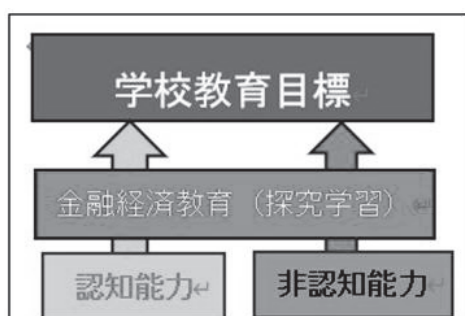


図3 学校教育目標との関連

また、研究テーマ「知りたい!考えたい!行動したい!みんなとつながる平岡っ子!～児童が主体的に活動できる参加度の高い授業を通して～」(前述)にある「参加度の高い授業」を重視した理由は、児童の学習に対する当事者意識を高めることにあった。本校では、認知能力と非認知能力のバランスの取れた育成を目指し、金融経済教育を通じた探究学習を推進した(図3)。これもまた、学校教育目標の実現に向けた一つの手段である。

② 研究テーマに基づく授業展開と成果の評価

年度末を迎え、教員たちは金融経済教育の実践を通じてどのような成果を得られたのか、また、学校教育目標にどの程度近づいたのかを振り返った。本校の研修主任である檉葉は、前述した三つの研究視点に基づいて成果を検討した。以下に、3年生と6年生の学習活動を取り上げ、実践の概要と研究の視点から見た成果を述べる。

■3年生「地域の役にたち隊!～町の人々のつながりを通して～」

【実践の概要】

本単元は、全学年の中で最も地域とのかかわりが多かった。これは、担任が地域との連携を不可避とする単元構成を意図的に設計したためである。

児童は、自ら育てた野菜を地域の方々に販売する活動を行った。販売場所として、地域で唯一の商店の軒先を借り、9月と12月の2回販売を実施した。特に12月の販売では、9月の反省

を活かし、購入者へのアンケート結果を基に販売方法や態度を改善した。その結果、販売活動は地域で話題となり、多くの人々が集まり、子ども園の園児も購入するほどの盛況ぶりを見せた。地域の方々からは賞賛や励ましの声が多く寄せられ、「毎年続けてほしい」との要望もあった。

【研究の視点から見た成果】

研究の視点①「児童が当事者意識をもって学習に取り組んでいたか」

- ・ 児童の提案や意見をもとに、活動を進めるようにしたので、意欲的に取り組むことができた。
- ・ 育てる野菜や役割を自分たちで選択したので、当事者意識をもって授業に取り組んでいた。

研究の視点②「対話的な学習活動を通じ、多様な考えを吟味し、更新・修正する機会があったか」

- ・ 野菜販売を 2 回したことで、全員が流れを理解していたので、販売するときの課題と解決方法を考えることができた。
- ・ 野菜ごとにクラスを分けたことで、他のクラスの調べたことやお世話の仕方を参考にして、活動の質を高めることができた。

研究の視点③「児童が生活や地域、社会とのつながりを意識し、それを学びに生かしていたか」

- ・ ふれあいショップ「絆」の方から、野菜の育て方や売り方などを教えてもらうことで、地域のお店と関わる事ができた。ポスターを貼ったり、チラシを配ったりすることで、地域の方も野菜を買いに来てくれた。
- ・ 2 回目の野菜販売に向けて話し合っている中で、何度も「地域の人のために」という言葉が、子どもたちから出てきた。

■6年生「働くって？」

【実践の概要】

6 年生の活動では、児童が自分の希望する職業について調べるとともに、まだ職業を見つけていない児童もじっくりと 1 年間かけて探究する機会を設けた。

これまでの「総合的な学習の時間」では、毎年同じ活動が繰り返される傾向があり、児童の興味・関心や学習の必要性を十分に考慮した授業が行われていなかった。しかし、今回は公開授業という機会があったため、教員も当初から強い意欲を持ち、児童の学習の流れを丁寧に把握しながら授業計画を柔軟に修正していった。その結果、児童は自分の関心の高い職業について主体的に調べ、「自分ごと」として学習に取り組むことができた。

また、1 学期には校内の教員へのインタビュー、2 学期には博物館の学芸員や介護福祉士との交流を通じて、特定の職業に対する憧れだけでなく、身近な仕事や趣味を生かした職業についても理解を深めることができた。児童は、自分たちで作成した「魅力の物差し」を用いながら職業について調査を行い、学習の意義をより強く感じるようになった。このような「参加度の高い授業」を通じて、教員も「自分ごと」として学習に向き合うことの重要性を再認識し、大きな自信を得た。

【研究の視点から見た成果】

研究の視点①「児童が当事者意識をもって学習に取り組んでいたか」

- ・ 継続して働くことについて考えられたので、自分ごととして考えていく様子がうかがえた。

- ・ 自分の興味のある仕事を調べる活動は、当事者意識をもってできていた児童が多かった。
- ・ 発表会があるのは、子どもたちの意欲につながりやすそうだった。
- ・ 介護福祉士さんなど、実際にお会いして話を聞いたことは、社会の仕事や働くことへの関心の高まりにつながっているような反応がうかがえた。

研究の視点②「対話的な学習活動を通じ、多様な考えを吟味し、更新・修正する機会があったか」

- ・ ホワイトボードをグループで使わせるのは、話し合いがしやすそうだった。
- ・ グラフ化は、自分の考えを整理しやすくなって伝えやすかったり、受け取りやすかったりしたので、話し合いで効果的だった。

研究の視点③「児童が生活や地域、社会とのつながりを意識し、それを学びに生かしていたか」

- ・ 介護福祉士さんなど、人との出会いは、考えを深めていくのに貴重な体験となった。

③ 教員の成長と公開授業の意義

公開授業後、ある学年主任は「このような機会がなければ、一から単元構成を考えることはなかった。児童の意識や地域の人々の思いを反映させた授業を実施できたのは貴重な経験だった」と述べた。この言葉には、達成感とともに、教員自身の成長が感じられる。

「自分ごと」として学習に向き合うことや、当事者意識を持つことは、教育において普遍的な課題である。授業の手法やツールが進化しても、これを達成することは容易ではない。しかし、私たち教員は、児童が学習を通じて得た力を日常生活に応用できるような授業を実現したいと願っている。そして、それは40年前に私（丹後）が教員になった当初から変わらぬ思いである。

5. 平岡小学校の実践に見る金融経済教育の意義と今後の展望

本報告で示した平岡小学校の実践は、金融経済教育が単なる金銭管理や経済の仕組みを学ぶための教育にとどまらず、児童のキャリア発達を促す重要な学びであることを明らかにした。特に、児童が主体的に学び、対話を通じて考えを深め、社会とのつながりを意識する機会を得ることが、金融経済教育の教育的意義として浮かび上がった。

平岡小学校の実践を通じ、金融経済教育が児童の「当事者意識の醸成」に寄与したことは特筆すべき点である。児童が自ら学ぶ内容や活動の方向性を決めることで、学習への主体的な関わりが強まり、金融や経済に関する知識が単なる暗記ではなく、生活や将来のキャリアと結びついた実践的な学びとなった。また、学芸員や介護福祉士との対話を通じ、児童は「働く」ことの多様な意味を理解し、将来の職業選択に対する意識を高めた。これは、金融経済教育がキャリア教育と密接に関連する学習領域であることを示している。さらに、調査結果からは、金融経済教育が家庭内の対話の活性化にも寄与する可能性が示唆された。児童が「お金」について考える機会を得ることで、家族と仕事や生活設計について話し合う頻度が増え、それが職業観の形成にも影響を与えることが確認された。このことは、金融経済教育が学校内の学びにとどまらず、家庭や地域社会にまで広がる可能性を持つことを示している。

一方で、今後の課題として、金融経済教育の継続的な実践と発展の必要性が挙げられる。平岡小学校の実践では、児童が働く人々と出会い、職業観を広げる機会を得たが、これを単発の活動

で終わらず、継続的な学習として位置づけることが求められる。また、キャッシュレス化が進む現代社会において、電子決済やデジタルマネーに関するリテラシーを含めた指導が必要である。これにより、児童は経済活動の変化に対応し、より実践的な金融知識を身につけることができる。さらに、地域との連携を強化し、社会との接続を意識した学びを展開することが今後の方向性として重要である。例えば、地域の企業や自治体と協働し、実際の経済活動に児童が関わる機会を増やすことで、金融経済教育をより実生活に即した学びへと発展させることができる。

平岡小学校の実践は、金融経済教育が児童のキャリア発達を促し、社会との関わりを深める重要な教育であることを示した。今後は、本校の事例をもとに、全国の小学校において金融経済教育のさらなる充実を図ることが求められる。学校・家庭・地域が連携し、児童が主体的に経済や社会を理解し、将来の生き方を構想する力を育むことが、今後の金融経済教育の大きな目標となるであろう。

注

- 1) 金融広報中央委員会は、堺市立平岡小学校が研究指定を受けた大阪府金融広報委員会の上位組織である。金融広報中央委員会のリーフレット(2023)では、「金融教育」と「金融経済教育」の2つの用語が混在しており、本実践報告で引用した「金融経済教育」の定義に関する一文は、同リーフレットにおいて「金融教育」の定義として記載されているものである。「金融経済教育」は2013年6月に閣議決定された「消費者教育の推進に関する基本的な方針」で用いられている語であり、その「意義・目的」は「金融リテラシー(金融に関する知識・判断力)の向上を通じて、国民一人一人が、経済的に自立し、より良い暮らしを実現していくことを可能とするとともに、健全で質の高い金融商品の提供の促進や家計金融資産の有効活用を通じ、公正で持続可能な社会の実現に貢献していくこと」(16ページ)とされている。本実践報告では、大阪府金融広報委員会が研究指定をした際に用いた「金融経済教育」という用語を、「金融教育」に相当する同義語として使用した。
- 2) 本目標は、①働く意義と職業選択、②生きる意欲と活力、③社会への感謝と貢献の三つの「分野目標」から構成されている。それぞれの下位目標は、①勤労の意義とお金の価値の重さを理解する、自分の職業選択について主体的に考える、②付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する、自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける、③者会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う、よりよい社会を築くためにみんなで協力することの意味を理解し、何ができるかを考え実行する態度を養う、である。なお、これらの目標は、低学年・中学年・高学年ごとに発達段階を考慮して設定されている。

付記

本実践報告の一部は、堺市立平岡小学校(2024)の内容を加筆・修正したもの、または金融経済教育公開授業(2024年11月8日、堺市立平岡小学校)における榎葉・岩崎両名の口頭発表を文章化したものである。「2. 実践の概要」および「3. 実践の詳細」は榎葉が、「4. 実践の成果(2)教員の変容」は丹後が、それ以外の部分は岩崎が分担して執筆した。

なお、丹後の所属は執筆当時のものであり、2025年4月より堺市立福泉東小学校に変更となっている。

文献

- 菊池武剋(2008)、「キャリア教育の理念と性格」、日本キャリア教育学会、『キャリア教育概説』、東洋館出版社、11-28 ページ
- 中央教育審議会(2011)、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」、中央教育審議会
- 金融広報中央委員会(2016)、「子どものくらしとお金に関する調査(第3回)2015年度」、https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/kodomo_chosa/2015/, 2024年10月16日
- 金融広報中央委員会(2023)、『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—(2023年10月改訂版)』、全国広報中央委員会
- 堺市立平岡小学校(2024)、『金融教育公開授業要項』、堺市立平岡小学校(2024年11月8日、金融経済教育公開授業 in 大阪(堺市)当日配布資料)